

(2) 高齢者の居住環境

60歳以上の高齢者が、外出時の障害と感じていることをみると、「特になし」が44.5%であるが、障害と感じている事柄は、「道路に階段、段差、傾斜があったり、歩道が狭い」が15.2%と最も多く、「ベンチや椅子等休める場所が少ない」(13.7%)、「バスや電車等公共の交通機関が利用しにくい」(13.4%)と続いている(図1-2-6-3)。

(3) 高齢者の安全・安心

ア 交通事故死者数に占める高齢者の割合は過去最高

平成28(2016)年中における65歳以上の高齢者の交通事故死者数は、2,138人で、前年より109人減少したが、交通事故死者数全体に占める高齢者の割合は54.8%となり、過去最高と

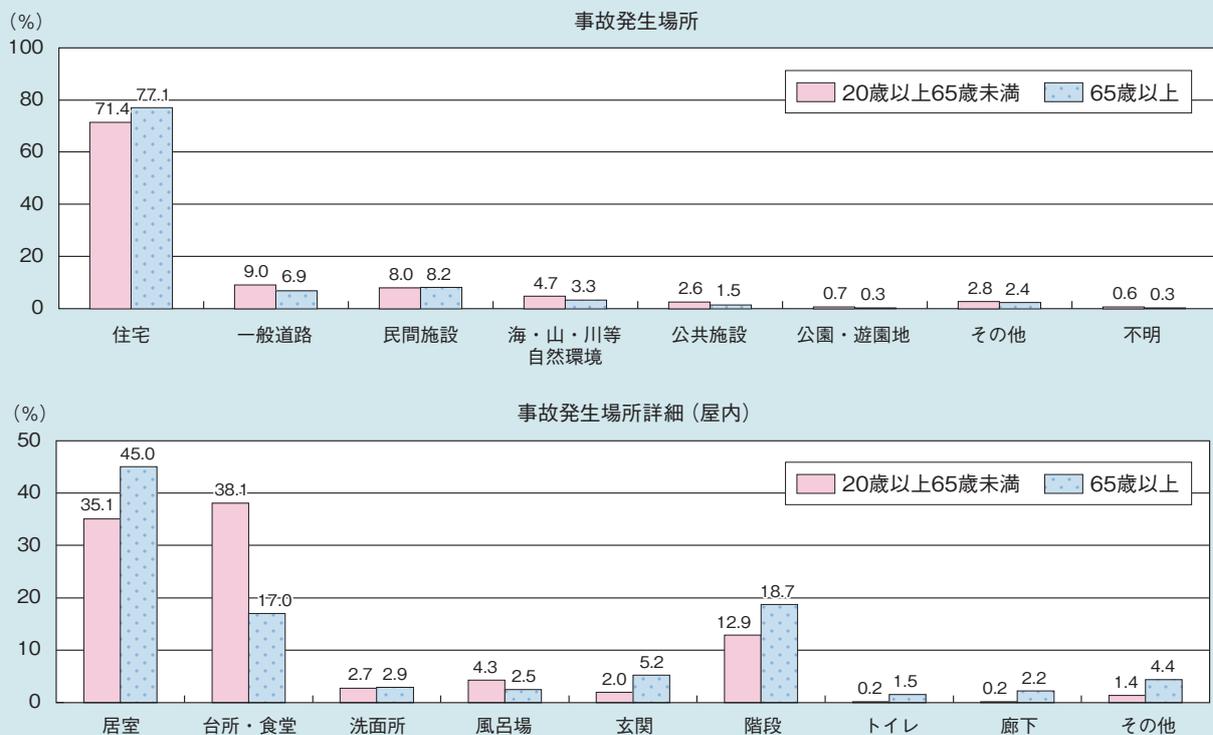
なった(図1-2-6-4)。

他方、75歳以上の運転免許保有者10万人当たりの死亡事故件数の割合は減少傾向にある(図1-2-6-5)。

イ 高齢者の刑法犯罪被害認知件数に占める割合は増加傾向

犯罪による65歳以上の高齢者の被害の状況について、高齢者の刑法犯被害認知件数でみると、全刑法犯被害認知件数が戦後最多を記録した平成14(2002)年に22万5,095件となり、ピークを迎えて以降、近年は減少傾向にあるが、高齢者が占める割合は、27(2015)年は13.8%と、増加傾向にある(図1-2-6-6)。

図1-2-6-2 高齢者の家庭内事故



資料：独立行政法人国民生活センター「医療機関ネットワーク事業からみた家庭内事故—高齢者編—」(平成25年3月公表)

(注1) 平成22(2010)年12月～平成24(2012)年12月末までの伝送分。

(注2) 事故発生場所詳細(屋内)については、不明・無回答を除く。